





川北会長の後を継いで、平成14年度のソサイエティ会長を務めさせていただくことになりました中川です。会長就任のご挨拶をさせていただきます。

現在、我国の経済や技術の置かれている状態は、大変困難であると一般には言われております。これが学会の運営にも影響していることは、皆様がよく知るところであります。多くの学会で、学会員の数は減る方向にあり、本学会でも、その傾向は現れていますが、比較的軽症でありますのは、ソサイエティ制の実施、英文誌の普及による国際化への対応、発足させやすい研究専門委員会制度などがあげられます。

一方、このソサイエティの位置するところは何でしょうか。基礎的な分野、境界的な分野のためのソサイエティは、過去にこだわらず、柔軟に分野を構成できる反面、あいまいで、お互いの分野を理解しない集団を形成することもあるのです。しかし、今の時代は努力すれば我々のソサイエティに味方する時代でもあるのです。それは、やはり分野と分野の境界に新しい分野が育ちやすいからです。

学会の国際化はこのソサイエティの最も大きな方向の一つですが、どんな国際化になるのか、ベクトルの方向が大切な時期になってきました。ベクトルの方向は、やはりアジアでの国際化だと思います。幸いなことに、諸兄の今までの努力によってこのソサイエティでは基礎が作られています。さらに、日本を取り巻く

環境も、欧米に傾き過ぎていたものから、徐々にアジアに目が向くようになりました。現在開催中のワールドカップは大きなきっかけを与えてくれています。我々が誇りを取り戻すと同時に、良き隣人を持たれたことを誇りに思うでしょう。

私は70年代にドイツとオランダで学んだことがあります。両国は過去のむずかしい関係もありますが、現在ではそれよりも互いに認め合う部分が大いと思います。自己に誇りを持つと同時に隣人をも誇りに思えたら、どんなにすばらしいか、こんなことはアジアでは無理ではないかと留学中に思いましたが、歴史は意外にも早くやっています。隣人との良き競争と協調は、日本の文化、科学技術の成熟に大変に役立つと信じています。

以上のことは、国際関係のみならず、学会間の関係にも及ぶ気がいたします。学会同士の協力は、やはり一般会員の立場から、さらに踏み込んだ検討がなされるべき時期に来ていると思います。

この10年間、経済の低迷に悩まされているのですが、原因は何だろうと考えるのですが、原因の一つに、身近なものに新しさを求めないことがあげられます。常にブルーバードを追いつづけているからです。研究者の研究スタイルも同じで、高いオリジナリティを出している研究者は身近なものを大切に思う人と思うのです。身近なものとは、基礎的で、誰でも知っている知識や、我々が身に付けている文化などでしょうか。基礎・境界ソサイエティの役割はまさに、身近なものに新しさを発見する場だと思います。

この一年間、川北会長のもとに、ソサイエティ活性化の実施がなされ、成果があがりつつあります。今までの諸兄の努力をさらに発展させるよう頑張りますので、宜しく願いいたします。

## 平成 13 年度ソサイエティ企画 出前講演会 報告

事業担当幹事 大槻知明 (東京理科大)

基礎・境界ソサイエティ主催 (or 共催) の出前講演会「最新技術をわかりやすく紹介する講演会」につきまして、すでに実施された各支部からの報告を頂きました。ここに御報告致します。

---

日時：平成 14 年 2 月 8 日 (金) 13:30 ~ 15:00

場所：豊橋技術科学大学 A 棟講義室 (A2-201)

演題：システム LSI の技術動向と C 言語による機能レベル設計手法

講師：東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター 教授

理化学研究所 ゲノム科学総合研究センター プロジェクトディレクター 兼任  
榊佳之氏

主催：電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ

共催：電子情報通信学会 東海支部

---

掲題の講演会が学生向きに熱心に行なわれた。参加者は東海支部内の大学学部生、大学院生、大学職員を中心に、42 名であった。講演は、OHP を用いて行なわれ、ゲノム遺伝子、DNA の性質、1985 年からのヒトゲノム計画の解説、ゲノム情報科学、予防医学、遺伝子治療、創薬への応用など、基礎から応用につき、最先端のヒトゲノム、生命科学について学生にわかりやすく説明していただいた。ヒトの遺伝子設計図であるヒトゲノムの全解読が間近になり、設計図を手にするにより、医学、医療をはじめ生命科学全体の方法論や研究対象が大きく変革しつつある現状など、ヒトゲノム計画を中心とするゲノム解析の最前線の状況とそれに伴う生命科学の大きな変化について論じていただいた。

21 世紀の新しいライフサイエンスの重要性の話は、とくに電子情報通信分野の学生に大きな刺激を与えたようである。講演後も、参加学生から熱心な質問があり、予定時間を大幅に延長した。本講演は、基礎・境界ソサイエティの出前講演会として支援を受けて企画されました。関連ソサイエティはじめ関係各位に感謝いたします。

宮崎保光 (東海支部学生会顧問)

## 研究集会報告

総合大会 パネル討論「Ultra Wide Band (UWB) 技術の可能性」報告

スペクトル拡散研究会幹事 山里敬也 (名大)

---

開催日：3 月 28 日 13:30 ~ 15:30 53 号館 404 教室

座長：中川正雄 (慶大)

オーガナイザー：スペクトル拡散研究会幹事 山里敬也 (名大)

パネリストおよび講演題目：

PA-2-1 Ultra Wide Band (UWB) 技術の概要 佐々木重信 (新潟大)

PA-2-2 Ultra Wideband (UWB) 研究の流れと今後の展開 小林岳彦 (電機大)

PA-2-3 Ultra Wide Band (UWB) 技術の研究開発課題 河野隆二 (横浜国大)

---

Ultra Wide Band (UWB) 技術は、Impulse Radio を基本としており、変調を行わずに非常に広い帯域 (Ultra Wide Band) を占有するインパルス信号を用いて情報伝送を行う。現在、北米で注目を集めており、今年の 2 月 14 日 (バレンタインデー :-) に米連邦通信委員会 (FCC) が商用を認可した新しい無線技術である。UWB は、位置測定、レーダー、無線通信の 3 つの機能を合わせ持っており、極めて独特な無線応用技術と言える。

UWB は PDA や携帯電話あるいは PC の周辺機器を結ぶ高速無線 LAN (Local Area Network) や PAN (Personal Area Network) として用いられる可能性がある。用途としては、Bluetooth と同様の近距離での利用に限られるが、Bluetooth より高速な、100Mbps のデータ転送速度を目指して研究開発が行われている。また、レーダ、位置測定としては、消防士が建物内の人の位置を確認したり、警官が隠れている犯人を見つけだしたりするのに使用することができ、ITS へ応用として、車やトラックの衝突回避レーダーシステムが検討されている。さらには医療画像システムや地面の中に埋められたものの探知にも使える。

しかしながら、UWB については、日本ではあまり研究されておらず、話題のみが先行している状況であった。

そこで、スペクトル拡散研究会では、UWB 技術について、その基礎から解き明かし、UWB の要素技術、UWB 技術のもつ可能性、そのアプリケーション等について議論することを目的に、本パネル討論会を企画・開催した。

パネリストとしては、UWB に早くから着目し研究を重ねていらっしゃる新潟大佐々木先生、電機大小林先生、横浜国大河野先生、そして座長には、本企画の提唱者である慶応大中川先生をお願いした。

実は、この企画、SST 研幹事団の中では、時期尚早ではないか、との意見もあったが、当日は立ち見がでる程の盛況ぶり、UWB 技術への関心の高さが伺えた。

はじめに、座長の中川先生から UWB 技術の簡単な

紹介があり、それからパネリストの発表があった。

まず、新潟大佐々木先生から、UWB 技術そのものについての説明、物理的・機能的特徴について分かりやすい説明があった。さらに、米国 (FCC) および欧州 (CEPT) での標準化の動向、UWB の開発状況などについて説明があった。

次に講演された電機大小林先生のお話は、個人的には特に面白かった。インターネットと UWB は兄弟であり、その親は核兵器。急に注目を浴びようになった UWB 技術も米国ディフェンスコンバージョン政策のひとつであり、技術的にはある程度でき上がっている可能性がある。こうなると、フロンティア分野でみられる、早い者勝ち、一人勝ちの可能性があり要注意である。一方、UWB 技術の問題点として、EMC 問題、また開発の際に必要な試験法・測定法の確立が指摘された。最後に DS-UWB の可能性について紹介があった。

横浜国大河野先生からは、UWB 技術の研究開発課題について、先生の研究成果も交えて紹介があった。UWB 技術を通信として用いる場合、それは、スペクトル拡散技術の時間ホッピング方式として表すことができ、よって、スペクトル拡散技術の様々な技術の適用が可能である。

最後に、座長と 3 人のパネリストが会場から質問を受け付けるかたちでパネル討論が行われた。

なお、このパネル討論会の講演資料の一部は、SST 研ホームページに掲載している。

<http://www.ieice.org/~sst/>

また、2002 年 7 月 22、23 日に長岡技科大にて開催される SST 研で、IEEE Ultra Wide Band Systems and Technologies : UWBST2002 (UWB システムと技術に関する国際会議) の報告が予定されている。また、SST 研顧問河野先生、SST 研委員長井家上先生を中心に次の UWBST を日本で行うよう働きかけており、日本でも UWB 技術の研究開発がすすむものと思われる。

## 第 15 回 回路とシステム (軽井沢) ワークショップ

実行委員長 藤澤久典 (富士通研究所)



写真 第 15 回軽井沢ワークショップ特別招待講演

1988年5月、学会活動活性化の一環として開催された軽井沢回路とシステムワークショップも、今年で第15回という節目を迎えました。人間でいえば立志の歳にあたります。国際的に通じる質の高いワークショップを目指すという初心にかえり、新しい方向性を示すことができればと思い、運営・企画を進めました。以下に、感想を交えながら、第15回回路とシステムワークショップについて報告します。第15回の回路とシステム(軽井沢)ワークショップは、2002年4月22日、23日の二日間にわたり開催されました。開催場所については、毎年変更してはどうかとの声がありますが、ワークショップ発祥の地としての伝統と、ホテルのサービスや施設の質、そして旧来の避暑地としての落ち着きにアウトレットモール等の新しい行楽地としての活気を兼ね備えた町としての魅力などを総合的に考え、例年通り、軽井沢プリンスホテル西館国際会議場にて開催致しました。今回のワークショップでは、過去最高となる94件の論文投稿があり、84件を一般講演として採録致しました。これに加えて、特別招待講演1件、招待講演17件を企画し、多彩な内容となりました。特別招待講演には、水惑星の理論を提唱されるなど惑星物理学の権威である東京大学の松井孝典先生をお招きして「宇宙から見た地球 - 我々とはいかな

る存在か?」との題で講演いただきました。生命の起源や循環システムとしての地球論からはじまって、地球システムにおける人間社会の意義、グローバル化を邁進している現代文明への警鐘など、地球と人類のつきあい方や科学技術への取り組み方を考える上で大変興味深いお話を聞くことができました。研究者としての哲学をあらためて考えるよい機会になったのではないかと思います。この他、注目度の高いテーマを重点テーマとして取り上げ、集中して聴講・討議できるように、関連した講演を集めた特別セッションを設けました。今回は「C言語ベース設計」「CMOS高速シリアル/パラレル・リンクのための集積回路技術」「離散システム理論の地理情報システムへの応用」「遺伝子ネットワークのモデル化」の4つテーマを重点テーマとして取り上げました。いずれも多数の聴講者で溢れており、関心の高さを窺い知ることができました。この他、21世紀の高齢化社会に向けた「高度福祉社会を目指した21世紀の高齢者・障害者支援技術」をはじめ、充実した内容となっており、白熱した論議により時間超過のセッションが続出するなど活気に満ちたワークショップとなりました。運営側にとっては大変でしたが、活気のあるワークショップを開催できたことは喜ばしいことです。今回、事務手続きの効率化および論文情報の電子化を目指して、論文投稿・査読およびワークショップ参加のWebシステムを構築いたしました。ほとんどボランティアに近い費用で、構築にご尽力いただいた関係者諸氏に厚く御礼申し上げます。なお、本ワークショップで発表された成果を対象として、別途論文募集・査読を実施し、電子情報通信学会 基礎・境界ソサイエティ英文論文誌 (IEICE Trans. On Fundamentals) 小特集号を2003年4月に発行する予定です。是非ご覧下さい。最後になりますが、開催にあたり多大なるご尽力を頂きました関係者各位に、この場をかりて厚く御礼申し上げます。

平成 14 年度基礎・境界ソサイエティ運営委員会 名簿

運営委員会メンバー

幹事会

ソサイエティ会長	中川 正雄 (慶大)
次期ソサイエティ会長	仙石 正和 (新潟大)
ソサイエティ編集長	今井 秀樹 (東大)
ソサイエティ副会長 (事業担当)	築山 修治 (中大)
ソサイエティ副会長 (システムと信号処理サブソサイエティ会長)	川又 政征 (東北大)
ソサイエティ副会長 (情報通信基礎サブソサイエティ会長)	中村 勝洋 (千葉大) (東京理科大)
ソサイエティ副会長 (音響・超音波サブソサイエティ会長)	塩川 祥子 (静岡大) (東京電機大)
ソサイエティ副会長 (非線形理論とその応用サブソサイエティ会長)	森 真作 (日本工業大)
庶務幹事	長谷川 孝明 (埼玉大)
"	田村 裕 (新潟工科大)
会計幹事	羽瀧 裕真 (茨城大)
"	中野 敬介 (新潟大)
大会担当幹事	荒川 薫 (明大)
"	名嘉村 盛和 (琉球大)
ソサイエティ誌担当幹事	眞田 幸俊 (慶大)
"	金子 美博 (岐阜大)
事業担当幹事	大槻 知明 (東京理科大)
"	岡田 和則 (通総研)
電子広報担当幹事	山里 敬也 (名大)
"	神澤 雄智 (芝浦工大)
和文論文誌編集委員長	白井 宏 (中大)
英文論文誌編集委員長	白川 功 (大阪大)
英文論文誌編集幹事	田口 亮 (武蔵工大)
出版委員	太刀川 信一 (長岡技科大)
特別委員 (国際担当)	マイケル ロックラン (ソニー)

研究専門委員会委員長

回路とシステム (CAS)	福井 裕 (鳥取大)
情報理論 (IT)	藤原 融 (大阪大)
信頼性 (R)	生岩 量久 (NHK)
超音波 (US)	塩川 祥子 (静岡大)
応用音響 (EA)	安部 正人 (岩手大)
非線形問題 (NLP)	潮 俊光 (大阪大)
VLSI 設計技術 (VLD)	三橋 隆 (東芝)
情報セキュリティ (ISEC)	小林 邦勝 (山形大)
デジタル信号処理 (DSP)	南 重信 (東芝)
スペクトル拡散 (SST)	井家上 哲史 (明大)
コンカレント工学 (CST)	椎塚 久雄 (宇都宮大)
思考と言語 (TL)	新田 義彦 (日大)
情報文化と倫理 (FACE)	鎌田 一雄 (宇都宮大)
安全性 (SSS)	佐藤 吉信 (東京商船大)
ITS (高度交通システム)	中川 正雄 (慶大)

オブザーバ

編集特別幹事	今井 浩 (東大)
ヒューマンコミュニケーショングループ	志和 新一 (東京電機大)

(国際) 学術研究集会運営委員会委員長

非線形理論とその応用	森 真作 (日本工業大)
システムと信号処理	仙石 正和 (新潟大)
多次元移動情報ネットワーク	羽鳥 光俊 (国立情報学研)

第三種研究会委員長

精度保証付き数値計算とその応用	大石 進一 (早大)
技術の歴史	篠田 庄司 (中大)
可視光空間通信第三種	中川 正雄 (慶大)
ソフトプロセッシング	宮永 喜一 (北大)

## 研究会案内

研究会	予定	発表申込連絡先
回路とシステム (CAS)	9/3-4 (阪大)「非線形回路とシステムおよび一般」NLP 共催, 11/7-8 (福井大)「グラフ, ペトリ, ニューラルネット, および一般」CST 共催, 1/22-24 (和歌山・白浜温泉)「一般」, 3/17-18 (福島・日本大)「通信のための信号処理, および一般」CS・DSP 共催, ! (研究会ホームページ上で受け付けております)  <a href="http://www.ieice.org/ess/cas">http://www.ieice.org/ess/cas</a>	中西功 (鳥取大) isao@fed.tottori-u.ac.jp
情報理論 (IT)	7/15,16 (玉川大)「フレッシュマンセッション, 一般」, 9月 (信州大)「一般」[申込締切 7/20], 12/3-6 (群馬)「招待講演」, 3/26-27 (三重大)「サブソサイエティ大会, 招待講演, 一般」  <a href="http://ieice.kmb.info.gifu-u.ac.jp/">http://ieice.kmb.info.gifu-u.ac.jp/</a>	大濱靖匡 (九大) oohama@csce.kyushu-u.ac.jp 山口和彦 (電通大) yama@ice.uec.ac.jp
信頼性 (R)	9/20 (機械振興会館)「試験法, 信頼性理論, 信頼性一般」[申込締切 7/20], 10/18 (九大)「信頼性一般」, 11/15 (大阪・中央電気倶楽部)「電子部品の信頼性, 信頼性一般」, 12/20 (機械振興会館)「保全性, 安全性, 信頼性一般」, 2/21 (四日市・住友電工)「機構部品の信頼性, 信頼性一般」  <a href="http://www.ieice.org/~r/">http://www.ieice.org/~r/</a>	柳繁 (防衛大) shigeru@nda.ac.jp 陶山貢市 (東京商船大) suyama@ipc.tosho-u.ac.jp
超音波 (US)	7/5 (機械振興会館)「圧電デバイス・材料特集」, 8/27 (千葉大)「水中音響特集」[申込締切済], 9/19-20 (東北大)「一般」, 10/25 (湘南工科大)「医用超音波特集」, 11/29 (静岡大)「一般」, 12/16 (東工大)「強力超音波特集」, 1/23-24 (関西大)「一般」, 2/22 (三菱電機)「一般」  <a href="http://www.ieice.org/~us/">http://www.ieice.org/~us/</a>	秋山いわき (湘南工科大) akiyama@iwaki.org 橋本研也 (千葉大) ken@sawlab.te.chiba-u.ac.jp
応用音響 (EA)	7/26 (東京情報大)「楽音の信号処理/一般」[申込締切済], 8/22,23 (東北大)「一般」[申込締切済], 9/20 (東京)「マイクロホンアレイ・ブライント分離・音源位置推定/一般」[申込締切 7/15], 10/24,25 (長岡技科大)「一般」[申込締切 8/15], 11/28,29 (熊本大)「一般」[申込締切 9/15], 12/20 (機械振興会館)「アクティブノイズコントロール・音場制御・HRTF・HDA/一般」[申込締切 10/15], 1/23,24 (関西大)「一般」[申込締切 11/15], 3/28 (機械振興会館)[申込締切 1/15]  <a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp/asj/EA/index-j.html">http://wwwsoc.nii.ac.jp/asj/EA/index-j.html</a>	浅野太 (産総研) f.asano@aist.go.jp
非線形問題 (NLP)	7/4 (茨城大), 9/3-4 (大阪大)CAS 共催, 11月 (北海道), 12月 (東海), 2月 (北大)NC 共催  <a href="http://www.ieice.org/~nlp/">http://www.ieice.org/~nlp/</a>	早川美徳 (東北大) hida@cmpt.phys.tohoku.ac.jp 池口徹 (埼玉大) tohru@nls.ics.saitama-u.ac.jp
VLSI 設計技術 (VLD)	9月 (東京)「プロセス, デバイス, 回路シミュレーション及び一般」SDM, 応物モデリング研究会 共催 [申込締切 7月中旬], 11月 (未定)「デザインガイア」: CPSY, FTS, ICD 及び情処 ARC, SLDM 共催 システム LSI ワークショップ連続開催 (予定) [申込締切 9月上旬], 1月 (パシフィコ横浜 (予定))「FPGA とその応用及び一般」CPSY, 情処 SLDM 共催 (予定)[申込締切 11月上旬], 3月 (京大)「システムオンシリコン設計技術並びにこれを活用した VLSI」ICD 共催 (申込締切 12月上旬), ! WWW 受け付けを <a href="http://www-ise2.ise.eng.osaka-u.ac.jp/vld/apply/">http://www-ise2.ise.eng.osaka-u.ac.jp/vld/apply/</a> に開設しました.  <a href="http://www-ise2.ise.eng.osaka-u.ac.jp/vld/">http://www-ise2.ise.eng.osaka-u.ac.jp/vld/</a>	宇佐美公良 (東芝) kimiyoshi.usami@toshiba.co.jp

(次ページへ続く)

## (研究会案内 続き)

情報セキュリティ (ISEC)	7/18-19 (東北大)「一般」情報処理学会 CSEC 研と共催, 9/20 (機械振興会館)「一般」[申込締切 7/22], 11/14-15 (京大)「一般」[申込締切 9/21], 12/16 (機械振興会館)「一般」[申込締切 10/21], 3/26-27 (三重大)「一般」 <a href="http://grampus.jaist.ac.jp:8080/isec/">http://grampus.jaist.ac.jp:8080/isec/</a>	満保雅浩 (東北大) manbow@ecip.tohoku.ac.jp
デジタル信号処理 (DSP)	7/22-23 (長岡技科大)「信号処理、一般」SST と共催, 9月 (名大)「音声信号処理、DSP」SP と共催, 10月 (宮城県さくなくみ温泉)「プロセッサ、DSP および画像処理 LSI、一般」ICD,IE と共催, 1/9-10 (北九州大)「一般」SAT,RCS と共催, 3月 (福島日大工学部)「信号処理、一般」CAS,CS と共催、! (研究会ホームページを申し込みに御利用ください。) <a href="http://www.tkhm.elec.keio.ac.jp/dsp/">http://www.tkhm.elec.keio.ac.jp/dsp/</a>	中静真 (東京農工大) nkszk@cc.tuat.ac.jp
スペクトル拡散 (SST)	7/22-23 (長岡技科大)DSP 共催 [申込締切済], 10/21-22 (仙台・秋保温泉)[申込締切 8/20], 12/19-20 (明大)[申込締切 10/20], 3/5-7 (YRP)「移動通信ワークショップ」[申込締切 12/20], 3/26-27 (三重大)IT, ITS, ISEC 共催 [申込締切 1/20] <a href="http://www.ieice.org/~sst">http://www.ieice.org/~sst</a>	山里敬也 (名古屋大) yamazato@nuee.nagoya-u.ac.jp
コンカレント工学 (CST)	8月上旬 (大阪) [申込締切済], 11月 (福井大)「グラフ、ペトリ, ニューラルネット及び一般」, 1月 (未定)「コンカレント工学理論と応用一般」 <a href="http://www.ieice.org/~cst">http://www.ieice.org/~cst</a>	高橋宏治 (東工大) koji@ee.titech.ac.jp
思考と言語 (TL)	7/29 (ATR 音声言語通信研究所)「福祉と言語処理」(申込締切済), 10/25 (機械振興会館, 共催: 日本音響学会聴覚研究会)「言語聴覚認知・対話」[申込締切 8月], 12月 (東京), 3月 (ジャストシステム) <a href="http://www.ieice.org/~tl/">http://www.ieice.org/~tl/</a>	亀田弘之 (東京工科大) kameda@cc.teu.ac.jp
情報文化と倫理 (技術と社会・倫理) (SITE)	7/25-26 (岩手県立大)「一般」[申込締切済], 10月 (埼玉大)「一般」, 12月 (松山大)「一般」, 2月 (電通大)「一般」, ! 技術と社会・倫理研究専門委員会 (SITE) に改名 <a href="http://www.ice.dj.kit.ac.jp/face/">http://www.ice.dj.kit.ac.jp/face/</a>	鶴原稔也 (NTT ドコモ) tsuruhara@nttdocomo.co.jp 木下宏揚 (神大) kineo@ee.kanagawa-u.ac.jp
高度交通システム (ITS)	7/25 (機械振興会館)「交通情報空間データベース, 一般」[申込締切 5/20], 9月中旬 (大阪)「交通における計測, 一般」[申込締切 7/19], 11月下旬 (産総研)「ITS コア技術・ショーケース, 一般」, 1月下旬 (NHK 札幌放送局)「ITS 画像処理, 一般」, 3月上旬 (未定)「ITS 情報処理, 一般」 <a href="http://www.com.elec.mie-u.ac.jp/ITS/">http://www.com.elec.mie-u.ac.jp/ITS/</a>	水井潔 (関東学院大) mizui@kanto-gakuin.ac.jp
安全性 (SSS)	7/23 (東京都庁)「建築物の安全」[申込締切済], 8/27 (関西)「安全一般」[申込締切済], 10/22 (東京商船大)「交通の安全」[申込締切 8/15], 12/20 (機械振興会館)「安全性と信頼性」, 3/19 (東京商船大)「安全性一般」 <a href="http://earth.ic.kanagawa-it.ac.jp/anzen/">http://earth.ic.kanagawa-it.ac.jp/anzen/</a>	佐藤吉信 (東京商船大) yoshi@ipc.tosho-u.ac.jp

最新情報は <http://www.ieice.org/ess/ESS/res-j.html> または各研究専門委員会のホームページを御覧ください。

## 関連行事カレンダー

2002年	
10月7日 ～11日	<b>NOLTA 2002</b> (於 Xi'an International Conference Center, Xi'an, PRC) 2002 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications 投稿締切 2002年6月2日 連絡先 web をご覧ください。 <a href="http://risa.is.tokushima-u.ac.jp/NOLTA2002/">http://risa.is.tokushima-u.ac.jp/NOLTA2002/</a>

関連行事の情報を尾上までお寄せ下さい。最新情報は <http://www.ieice.org/ess/ESS/act-j.html> を御覧下さい。

## 英文論文誌 特集号カレンダー

特集テーマ	投稿締切日 発行月	問い合わせ先	案内掲載号 対象
離散数学とその応用小 特集 (小特集)	2002年8月26日 2003年5月号	伊藤大雄 (京都大学大学院情報学研究科通信 情報システム専攻) tel: 075-753-5382, fax: 075-753-5382 email: itohiro@kuis.kyoto-u.ac.jp	会誌5月号

最新情報は <http://www.ieice.org/ess/ESS/trans-j.html> を御覧下さい。

英文論文誌小特集号の提案は、英文誌編集幹事・田口亮先生 ([ataguchi@eng.musashi-tech.ac.jp](mailto:ataguchi@eng.musashi-tech.ac.jp)) まで御連絡下さい。

### 編集後記

本号からニュースレターの編集を担当します慶應義塾大学の眞田です。色々至らぬ点もありますが、基礎・境界サイエティの活性化のために、ぜひ皆様からの御意見を、[sanada@elec.keio.ac.jp](mailto:sanada@elec.keio.ac.jp) までお寄せください。ニュースレター掲載のための情報・記事なども歓迎しております。  
(眞田幸俊)

---

平成 14 年度 基礎・境界ソサイエティ誌編集委員会

委員長 今井 秀樹 (東大)

委員 荒川 薫 (明大) 井家上 哲史 (明大) 池原 雅章 (慶大) 石浦 菜岐佐 (阪大)  
伊藤 和人 (埼玉大) 乾 健太郎 (九工大) 鎌田 一雄 (宇都宮大) 鎌田 賢 (茨城大)  
木村 晋二 (奈良先端大) 鈴木 喜久 (東京工芸大) 都木 徹 (NHK 技研) 田村 裕 (新潟工大)  
中田 広 (NTT) 牧野 光則 (中大) 山崎 浩一 (玉川大)

幹事 眞田幸俊 (慶大) 金子美博 (岐阜大)  
sanada@elec.keio.ac.jp kaneko@info.gifu-u.ac.jp